



【不安④科学は「説得 獲は増えるか」と不安に力」を持てるのか】 思うことも多い。とはい
漁業管理の成功例を見 え 実行するのは漁業者
ると、科学者の助言を生 科学を押し付けてはいけ
かすものが多かった。だ ない」（沖縄県水産海洋
が、漁業者が「科学者の 技術センター秋田雄一研
言う管理で本当に魚と漁 究員）。漁業者が科学に

- ・卵を産む前の未熟な魚を守る
- ・1匹あたりの価格が高くなってから獲る

表2. まくぶの体長・体重・1匹あたりの価格

体長(cm)	20	30	35	40	50	60
体重(kg)	0.17	0.59	0.93	1.38	2.69	4.64
単価(¥/kg)	1,186	1,468	1,591	1,707	1,919	2,112
1匹あたりの値段(¥)	207	861	1,478	2,361	5,166	9,795

※2013～2016年の石川漁協セリデータから推定

沖縄県の科学者はマクブを大きくしてから獲る意義を魚価で説明（沖縄県水産海洋技術センター提供）

科学への納得対話でつかむ

「管理の効果」漁業者に分かりやすく



大きなマクブだけを獲る沖縄県沖縄市の漁業者 生出正道氏（生出氏提供）

納得し、管理に協力心を 持てるのが大切だ。納 得感づくりへ、どんな工 夫ができるだろうか。
市場から信頼構築
沖縄県北部で資源管理 後に増えたマクブ（シロ クラベラ）は高級魚だが、 小さいと魚価が安く産卵 もできない。20～30年前 から、県の科学者は漁業 者に小さな個体を獲らぬ よう助言していた（同）。 漁業者は当初、科学者を 歓迎しなかったが受け入 れていったという。
沖縄市で資源管理を進

める漁業者・柳田一平氏 が受け入れられてきた理 由について「忍耐強く、 分かりやすい言葉で管理 の効果を示され続けたた め。小型魚を守り、大型 魚にするとどれだけ魚価



和具の漁業者らは小さい イセエビを守る

触らせてもらえないこ ともあったと聞くが、意 思疎通するうちにデータ や知識をもらったり、意 見交換したりできるよう になっている」と証言す る。
同県は大きな魚と小さ な魚の割合を見て「子ど もの魚を獲り過ぎていな いか」と調べたり、単な る漁獲量だけでなく漁獲 努力量（例・魚に出た回 数など）を調べて「漁獲 が減ったが、出漁と魚自 体どちらが減ったせい か」などと分析したり、 漁業者に意見を募って 説明する。
（東京支社・太田毅人）

秋田研究員は、科学者 が漁業関係者に信頼され るため「市場に出てコミ ユニケーションすること を大切にできた。先輩 方の時代には漁業者に魚 を触らせてもらえないこ ともあったと聞くが、意 思疎通するうちにデータ や知識をもらったり、意 見交換したりできるよう になっている」と証言す る。
同県は沿岸の魚約20 0種の体長組成、100 種類の資源量指標値（漁 獲努力当たり漁獲量）を 分析。政府の今年度の分 析対象が67種であること と比べても目立つ数字 だ。

「魚の保護区をどこに置 くと効果が出るか」など を一緒に考えたりする。 同県では、行政の予算 で漁業者の船をチャータ ーして一緒に調査をする ことも。調査でデータが そろい、「漁師自身、科 学者と一緒に動くことで 資源への知識や意識が高 まる」（柳田氏）。

漁業者含め協議

三重外湾漁協和具海老 網同盟会は、科学者の助 言に従ってイセエビの漁 獲サイズを制限して資源 を大きくした。この背景

